

令和3年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

(敬称略)

No	学校名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
1	鶴見高等学校	個人	かねこ しょうた 金子 祥大	3	令和3年10月夕方、学校近くの路上で子どもが自転車で転び、左ひじに大けがをしてうずくまっているところを発見し、救急車を呼ぶとともに、子どもの保護者に連絡をして、子どもと保護者を病院に向かわせた。 見ず知らずの人に対して善意の行為を行う姿は、他の生徒の模範となった。
2		団体	体育祭実行委員会	—	体育祭の開催にあたり、事前の応援練習では、参加人数の制限、声出しの禁止やソーシャルディスタンスの確保の徹底などに努め、当日は、軍手の使用、声援の禁止など、様々な感染防止策を講じ、行事を成功に導いた。 コロナ禍で学校行事の実施が制限される中で、生徒が主体的に考え、課題に向けて果敢にチャレンジする姿勢は、他の生徒の模範となった。
3		個人	たかうら ゆうた 高浦 優太	3	コロナ禍で様々な活動に制限がかかる中、生徒会長として、学校行事の実施に向けてリーダーシップを発揮し、学校PRビデオの脚本を作成し、企画、制作、出演まで行うなど主体的に活動を行った。 日々の授業にも真面目に取り組み、様々な活動に自主的かつ積極的に取り組んだことは、他の生徒の模範となった。
4		個人	つかだ みみ 塚田 碧美	3	華道部の部員が1名となる中、コロナ禍で活動に様々な制限がかかった状況であっても、最後まで顧問や部活動インストラクターから、技能の向上だけでなく華道の精神やマナーを学んだ。 部活動だけでなく、日々の学習や委員会活動にも主体的に努力を重ねる姿勢は、他の生徒の模範となった。
5	神奈川工業高等学校	団体	神工祭アーチ班	—	神工祭（文化祭）の開催にあたり、工業各科の枠を超え、それぞれの得意分野を活かした大型のアーチを制作し、来場者に対しものづくりの素晴らしさを伝えた。 生徒一人ひとりが考え、チームとして協力して課題解決に向け努力する姿勢は、他の生徒の模範となった。
6		団体	K. K. STUDIO (課題研究 地域連携 アニメーション班)	—	デザイン科3年生の課題研究で、横浜市港北区に城跡として残る小机城と、横浜にゆかりのある戦国武将の認知度を上げるため、小中学校の歴史教育用のアニメーション制作を行った。 実際のアニメーション制作と同じように役割分担をして、ボイスドラマ「小机の重政」を基に生徒10名で制作に取り組んだ。
7		個人	こさか かずき 小坂 和輝	3	継続的に日本の伝統的な建築や古民家を撮影し、第10回古民家フォト甲子園で銅賞に入賞し、インターネットや新聞紙上に作品が掲載された。 再開発等で失われる街並みを記録するなど、資料的価値が高いデータを残す作業を地道に続けている。
8		個人	かしわざき はやか 柏崎 早香	3	ボート部に所属し、1名での環境にも負けず、自身の実力強化に力を注ぎ、全国高等学校総合体育大会ボート競技で準々決勝に進出した。また、県のボート競技強化指定選手にも選ばれた。 学習面においても、どの教科にも集中して取り組み、学校行事等にも積極的に取り組む姿勢は、他の生徒の模範となった。
9		個人	ばば りょうへい 馬場 凌平	3	ものづくり同好会に所属し、電気科の生徒でありながら、機械系の活動を行うとともに部長を務め、令和3年度高校生ものづくりコンテスト旋盤部門において関東大会4位という成績を収めた。 また、ボランティア活動として、中小企業と一緒に、ものづくりの楽しさを小学生に知ってもらおうイベントに参加した。
10		団体	課題研究 チーム本橋・江口	—	建設科3年生の課題研究で、建築甲子園に挑戦した。生徒2名1チーム編成で、令和3年度のテーマ「地域のくらし-これからの地区センター」について研究・創作活動をして、創造する喜びや発想力を向上させ、県大会優勝を果たした。 日々技術・技能の向上に励む姿勢は、他の生徒の模範となった。
11		団体	課題研究 「おもちゃの修理」班	—	課題研究の中で、近隣6つの幼稚園・保育園と連携して、故障したおもちゃの修理依頼を受けており、日ごろの学習の成果を発揮した修理により、地域の子どもの幸に貢献している。 依頼主を想い、ひとつひとつのおもちゃを誠意をもって修理し、地域社会へ貢献する取組は、他の生徒の模範となった。
12		個人	たなか ことは 田中 琴葉	3	2年次のデザインパテントコンテストにて、傘立てをデザインし優秀賞を獲得し、令和3年9月に意匠登録された。 自分の考えたものを自分の特許として出願するという新たな取組に果敢にチャレンジした。
13		個人	えがわ いぶき 江川 依吹	3	2年次のデザインパテントコンテストにて、真空ポンプ式シャンプー（リンス）ボトルをデザインし優秀賞を獲得し、令和3年10月に意匠登録された。 自分の考えたものを自分の特許として出願するという新たな取組に果敢にチャレンジした。

令和3年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

No	学校名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
14	神奈川工業高等学校	個人	むらかみ はるか 村上 遥	3	デザイン科2年の課題研究CGの授業で応募した、神奈川県教員採用試験告知ポスターのデザインに選ばれ、令和3年4月に教育長から感謝状が贈られた。 授業でもたくさんのデザイン案を出し、悩みながらも課題に真剣に向き合う姿勢は、他の生徒の模範となった。
15		団体	総合教育センターPR班	—	令和3年4月の総合教育センター新棟の供用開始に伴い、施設利用者へ新庁舎棟の魅力をアピールできるような、広報物の作成を行い、来庁者に親しみを持って活用してもらえるような、温かみのあるベンチやキャラクターを完成させることができた。 制作を通して生徒が互いに助け合い、責任を持って取り組む姿勢は、他の生徒の模範となった。
16		団体	建築研究部 しもじはやて おりはらひろたか (下地颯、織原弘尚、 さとうなおみち 佐藤直道)	—	建築研究部測量班は、高校生ものづくりコンテスト全国大会に向けて、計画的に練習に取り組み、活動が短時間で夜間というハンデを乗り越え、唯一の定時制チームとして出場し、県大会を制覇し、全国大会出場を果たした。 部員同士が協力し、目標を定め、果敢にチャレンジする姿勢は、他の定時制生徒に勇気を与え、模範となった。
17		団体	課題研究 木材加工班	—	課題研究木材加工班は、前年度に製作した足踏式アルコールスタンドを改良し、低学年用と高学年用の2種類を製作して近隣の小学校に寄贈した。 コロナ禍で様々な活動が制限され、地域とのコミュニケーションも少なくなる中、日ごろ学んでいるものづくりの知識・技術を生かし、地域貢献につながる取組となった。
18		個人	いまなり けんた 今成 研汰	4	自転車部に所属し、定時制授業終了後の短い放課後の時間に、練習方法を工夫しながらコツコツと技術と体力の向上に努め、令和3年8月に行われた、全国定時制通信制体育大会第56回自転車競技大会4km速度競走において、全国制覇を果たした。 部活動だけではなく、体育大会では実行委員長を務め、何事にも前向きに取り組んでおり、その姿勢は他の生徒の模範となった。
19	横浜緑ヶ丘高等学校	団体	緑高祭実行委員会	—	緑高祭(文化祭)の開催に当たり、1年前から企画について打合せを繰り返し、当日までの準備、運営までを行った。コロナ禍で開催自体が危ぶまれる中、感染症拡大防止のガイドラインの作成や、チケット制による入場者の制限、当日のソーシャルディスタンスの確保も行い、成功させた。 開催までの多くの課題を乗り越えようとする姿勢は、他の生徒の模範となった。
20	横浜国際高等学校	個人	いづか とも 飯塚 友希	3	第21回インターネットによる高校生小論文コンテストにて、国際科における学びに基づき、主体性を意識した英語教育の重要性について論じ、本選で最優秀賞を受賞した。 グローバルな視点が求められる課題に対しても、果敢に解決に向けて取り組む姿勢は、他の生徒の模範となった。
21		個人	パルメリ メイリ	3	国際バカロレアコースにおいて課題研究として「水の硬度と、紙による吸水の速度の関係」の論文を執筆し、紙製品の普及に関する研究作品を、科学の自由コンテスト「JSEC2021第19回高校生・高専生科学技術チャレンジ」に応募し、優秀賞を受賞した。 知的好奇心に溢れ、実験・調査の過程において創意工夫するなど、課題解決に向けて主体的に学ぶ姿勢は、他の生徒の模範となった。
22		個人	やまざき ひかり 山崎 日花里	3	令和3年3月に開催された第2回高校生スペイン語スピーチコンテストの第1部門で、「ジェンダー平等について」のスピーチを行い、第1位を受賞した。 1年次から第二外国語であるスペイン語の学習に熱心で、また同時に社会問題にも高い関心を持っており、学習を深める姿勢は他の生徒の模範となった。
23		個人	どい なつか 土肥 夏果	3	令和3年8月に開催された第18回エクステンション高校生スペイン語スピーチコンテストALEVINES部門にて、「全ての子どもが教育を受けられる世界に」というテーマでスピーチを行い、第2位の成績を収めた。 1年次から、熱心にスペイン語に取り組み、継続して努力する姿は、他の生徒の模範となった。
24		個人	やまもと えな 山本 枝奈	1	第39回全日本中国語スピーチコンテスト神奈川大会朗読部門の中学生・高校生の部において、最優秀賞を受賞した。 日頃より中国語の授業に熱心に取り組み、スピーチコンテストに向けても妥協することなく真剣に練習を積み重ねた姿勢は、他の生徒の模範となった。
25		個人	こばやし あおい 小林 碧	2	第39回全日本中国語スピーチコンテスト全国大会高校生部門において、第3位の成績を収めた。 1年次より熱心に第二外国語である中国語の授業に取り組み、スピーチコンテストに向けても妥協することなく真剣に練習を積み重ねた姿勢は、他の生徒の模範となった。
26		団体	SDGs同好会 「未来のためのパン屋さん」チーム	—	フードロスを減らして、その利益を生活困窮者への支援のために活用することを目的とし、パン屋での売れ残りを買い取り、そのパンを地元商店街で夜に販売するプロジェクトを行った。 この取組を、持続可能な発展をテーマにした生徒向けのコンテスト「未来のためのプロジェクト」に応募し、令和3年9月に開催された第2回国際ユースアンバサダー会議にて、ドイツ語で発表した。

令和3年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

No	学校名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
27	光陵高等学校	団体	保健委員会	—	コロナ禍におけるストレス状態が続く中、どんな困難にも心が折れずに立ち向かえる力（レジリエンス）の重要性を認識し、その概念を広く生徒に知ってもらうための活動を精力的に行い、生徒自らが心身の健康を目指す活動を続けている。
28	磯子工業高等学校	団体	自然科学同好会	—	無線操作で清掃ができる、自然環境に配慮した「水中ドローン」を製作し、水中ロボットコンベンションin JAMSTECに出品した。この活動が注目され、テレビ神奈川の「海と日本プロジェクト」よりインタビューを受け、その様子が「カナガワニ海」で放映された。 また、小・中学校の文化祭に参加し、出前授業を行うなど、部活動に真摯に取り組む部員の姿は、他の生徒の模範となった。
29	市ヶ尾高等学校	団体	体育祭実行委員会	—	コロナ禍での開催となり、感染症対策を随所で徹底させるべく企画立案を行い、体育祭当日にはスケジュールどおりのスムーズな進行、生徒への注意喚起と適切な誘導、不測の事態への臨機応変な対応を、生徒たちだけの力で行った。 このことは、今後の社会に必要な生きる力を醸成する良い機会となり、また他の生徒の模範となった。
30		団体	文化祭実行委員会	—	コロナ禍での開催となり、感染症対策を随所で徹底させるべく企画立案を行い、文化祭当日にはスケジュールどおりのスムーズな進行、生徒への注意喚起と適切な誘導、不測の事態への臨機応変な対応を、生徒たちだけの力で行った。 このことは、今後の社会に必要な生きる力を醸成する良い機会となり、また他の生徒の模範となった。
31	舞岡高等学校 保土ヶ谷養護学校	団体	マイタケプロジェクト（舞岡竹林活用プロジェクト） （舞岡高等学校・保土ヶ谷養護学校舞岡分教室）	—	地域と連携し、学校敷地の約3分の1を占める竹林の利活用を目指して年間を通して活動を行った。 学年・所属の垣根を越え、竹林の整備という活動を通し、地域活性化という循環型社会及びSDGsの視点を持った行動を主体的に行ったことは、他の生徒の模範となった。
32	松陽高等学校	団体	生徒会本部・美化委員会	—	生徒会本部と美化委員会が協力して校内クリーンアップの企画を練り、校内美化に努めたことで、校内各所において常に清潔な環境が保たれるようになった。 全校生徒の校内美化に対する意識を向上させるとともに、コロナ禍において衛生的な学習環境を維持することができた。
33	横浜修悠館高等学校	団体	ボランティア委員会	—	募金活動や、校内の花植え等の美化活動を行っている。また、毎年11月に除草作業を中心とする地域貢献活動を高等工科大学や近隣の町内会と協力して積極的に行い、地域の発展に貢献している。 見返りを求めない無償の奉仕の精神を大切にして、学校全体や地域住民のために尽力した活動は、他の生徒の模範となった。
34	瀬谷西高等学校	団体	2学年（全員）	—	SDGsをテーマとした学習の中で、鶴沼海岸のマイクロプラスチックを拾うビーチクリーンや、ハマロードサポーター制度を活用して通学路でもある海軍道路の清掃と植栽を行った。また、中屋敷地区センターの植栽や瀬谷駅周辺の商店街に花を飾ってもらう「フラワーロードプロジェクト」を実施し、花や緑による瀬谷の街の魅力向上に大きな成果を残した。
35		団体	SEYANISHI SDGs プロジェクト チーム	—	横浜市が主催する「ガーデンネックレス横浜2021」と連携し、コロナ禍で一般公開が中止となった同市の「里山ガーデンフェスタ」から花をもらい受け、地域企業、JA職員とともに瀬谷駅とJA瀬谷支店前に移植した。 主体的な社会参画を視野に、地域企業と連携を図り、地元の活性化に向けてひたむきに取り組む姿勢は、他の生徒の模範となった。
36	多摩高等学校	個人	ほんざわ りゅうき 本澤 龍紀	3	物理を中心に日ごろから様々な現象に興味を持って学習に励み、第17回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2021」の第1チャレンジにおいて力を発揮し、第2チャレンジ（全国大会）出場を果たし、優良賞を受賞した。 日々の学習において努力を重ね、成果につなげた姿勢は、他の生徒の模範となった。
37	向の岡工業高等学校	個人	やまもと さき 山本 咲	1	入学時より、ものづくりに興味・関心をもって作業を一から覚え、高校生ものづくりコンテスト神奈川県大会県大会電気工事部門で優勝し、さらに全国大会優勝も果たした。 電気工事という経験のない分野に果敢に挑み、目標達成のため試行錯誤を繰り返し、課題解決する取組は、他の生徒の模範となった。
38		個人	やまかわ みひろ 山川 未浩	2	入学後すぐに機械研究部に入部し、技能や技術を身につけ旋盤技能検定3級を取得した。同時に、ものづくりコンテスト大会出場に向けて日々練習を重ねて技術の向上に努め、旋盤部門で全国大会3位入賞を果たした。 「努力すれば結果は必ずだせる」を信条とし、後輩からも厚い信頼を寄せられる等、他の生徒の模範となった。
39	百合丘高等学校	団体	3年5組	—	LHRの「〇〇を元気にするプロジェクト」活動にて、新型コロナウイルス感染症対策に尽力する保健所の医療福祉従事者への「お礼状」を送付した。38名の生徒が医療福祉従事者への感謝の気持ちを伝え、その活動を応援することができた。 川崎市役所保健所感染症対策課の職員より、電話と文書で謝辞をいただいた。

令和3年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

No	学校名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
40	麻生総合高等学校	個人	にわ たつき 二羽 樹生	3	陸上部に所属しており、部員が1名の中、練習方法に新たな手法を取り入れる等工夫し、県大会出場という成績を収めた。 また、学校生活の面でも1年次より遅刻・欠席なく皆勤を続けており、委員会活動にも積極的に取り組んだ。部活動と学業を両立している姿は、他の生徒の模範となった。
41		団体	軽音楽部	—	制限された活動の中で意欲的に部活動を行い、「We Are Sneaker Ages」という大会の関東甲信越予選において、優秀校賞を受賞した。 「応援される部活」を目標として、校内行事に率先して参加するとともに、地域住民の自主制作映画の主題歌の演奏や、学校周辺の清掃活動等、地域の発展にも貢献している。
42	麻生高等学校	団体	野球部	—	毎朝の練習15分前に、トイレや昇降口等の清掃・ゴミ捨てや、学校周辺のゴミ拾い等、班毎に清掃活動を行っている。 コロナ禍で地域の方々と交流する機会が減っている中、清掃活動を通して地域住民とあいさつを交わすなど、他の生徒の模範となった。この活動に対して、近隣住民から学校へ電話で感謝と激励のお言葉をいただいた。
43	横須賀高等学校	団体	表面張力研究チーム	—	SSHの探究活動において「箱根温泉水の表面張力の比較」をテーマに研究を行い、その研究成果を、令和3年度SSH生徒研究発表会で発表し、ポスター発表賞を受賞した。 自分たちの発信によって丁寧な関係構築がなされ、継続的かつ自発的な協力体制につながることを理解していく姿は他の生徒の模範となった。
44		団体	美術部	—	地域の飲食店からの依頼でシャッターアート制作に取り組み、完成後は新聞等に掲載され、近隣の方から制作時のスナップ写真が届くなど、反響があった。 コロナ禍で街の雰囲気沈みがちな時期に地域貢献となる活動を行い、また、制作過程における「自分たちの手掛けたアートが馴染みの街に残っていく」ことに感謝する姿や、日程等の制限の中で最後まで熱心に向き合う姿は、他の生徒の模範となった。
45	横須賀工業高等学校	団体	グリーンボランティア部	—	校内緑化活動をメインにボランティア活動を行い、特に校庭芝生化において苗作り・育苗・植付・散水・施肥管理等を行っている。また、他校や他施設への苗供給や植付指導、日本芝草学会見学会開催等も積極的に行っている。隣接する小学校の管理ボランティア及びつくし公園芝生化プロジェクトにも早朝活動で取り組んでいる。
46	平塚江南高等学校	団体	生物部	—	令和2年度から、カエデ翼果がより遠くに散布される種子の形状を探ることを目的とした研究を継続して行い、令和2年度かながわ探究フォーラム発表会、令和3年度SSH生徒研究発表会に研究成果を発表した。 研究活動を通して、論理的思考力の他、主体性や粘り強さを身に付けたその姿勢は、他の課題研究に取り組む生徒の模範となった。
47	平塚工科高等学校	個人	たしろ たかゆき 田代 喬之	3	コロナ禍で様々な制限がある中で工夫を凝らし、第21回高校生ものづくりコンテスト自動車整備部門において全国大会準優勝という成績を収めた。過去の問題傾向や競技車両の分析を行うことによって、問題の傾向を考察し、日ごろの学校生活の中で培った知識、経験、現場対応能力や人間性を本番で発揮した。 目標達成のため試行錯誤を繰り返し、課題解決する取組は、他の生徒の模範となった。
48		団体	社会部	—	毎年出場しているソーラーカーレースを目標にソーラーカーの修繕、改良を行ってきた。令和2年度の大会中止の影響でレース経験は浅かったが、令和3年のレースでは、創意工夫と組織運営によりクラス準優勝を果たした。 日ごろから培ってきたチーム力、技術力そして何よりも人間力を発揮し一丸となって取り組む姿勢は、他の生徒の模範となった。
49	大船高等学校	個人	おちあい みほ 落合 美帆	3	美術部に所属し、木版画の表現・技術向上を目指して努力を続けており、神奈川県高等学校美術展において木版画で2年連続の奨励賞を受け、特に2年目の大版の作品が高い評価を受け、第45回全国高等学校総合文化祭に出品することとなった。 コロナ禍で行動が制限される中、よりよいものを作るため努力する姿勢は、他の生徒の模範となった。
50	湘南高等学校	団体	なかつがわ りんや 中津川 凛也 ふくなが ゆう 福永 優	—	有志で「ワンチャンT」と呼ばれるオリジナルTシャツ(テーマ Save The World)を作成し、生徒の希望者に販売し、売上金を、藤沢市民病院に寄付したところ、藤沢市民病院院長から感謝状を授与され、タウンニュースで紹介された。 新型コロナウイルス感染症の影響で医療がひっ迫しているという報道に触れる中で、自分たちでできる社会貢献の在り方を考え、主体的に行動した姿勢は、多くの生徒の模範となった。
51		個人	かたの 片野 ゆかり	3	第71回神奈川県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会に、「後悔しないためには、まず行動してみる。」というテーマでエントリーし、高P連会長賞を受賞した。本大会に参加するにあたり、発表原稿の作成から発表練習まで、自主的に行った。 日ごろから授業では主体性をもって発言する等、学習意欲が高く、行事にも積極的に参加する姿は、他の生徒の模範となった。

令和3年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

No	学校名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
52	藤沢西高等学校	団体	幼児教育音楽（選択者）	—	キャリア教育の一環として近隣の児童施設等を訪れ、職業観や勤労観を養ってきたが、コロナ禍でその訪問が難しい状況の中、直接交流ができなくても、学童保育所が再開された時に「子どもたちの心が前向きになれるプレゼント」を生徒らが発案し、授業外の時間も使い制作した。 この活動を通して、地域に根差した交流の発展に貢献した。
53	藤沢工科高等学校	個人	おぐら たかし 小倉 高志	3	建築研究部に所属し、毎日の地道な練習や難しい技能の習得により、第21回高校生ものづくりコンテスト木材加工部門において、全国大会へ出場した。 様々な資格取得等にもチャレンジし、難しい資格にも合格の成果を出した。その姿勢は、他の生徒の模範となった。
54	湘南台高等学校	団体	サッカー部（男女）	—	第38回神奈川県ゆあいピック大会サッカー競技において、大会の運営にボランティアとして参加し、競技の円滑な運営に貢献した。 ボランティアとしてサッカー競技の運営に携わる中で、障がい者に対する差別や偏見に改めて真摯に向き合い、スポーツを通してそれらが克服できることを理解し、積極的に活動した。
55	小田原城北工業高等学校	団体	デザイン科生徒	—	はこね金太郎ライン愛称板（看板）のデザイン案の提供、小田原市新マンホール蓋のデザイン制作、小田原衛生美化サービスとの連携によるパッカー車ペイント事業等、近隣施設や団体から様々な依頼を受け、制作活動に意欲的に取り組んだ。 コロナ禍が続く中、リモート会議などを駆使し、新しい事業への取組も実践するなど、地域コミュニケーションの輪を広げながら地域の発展に大きく貢献した。
56	鶴嶺高等学校	個人	いわはし はるま 岩橋 陽磨	2	「地理A」の授業において、「茅ヶ崎市立図書館の蔵書に市内の小・中・高校生が作成した帯を付けることにより、市民の読書の習慣を増進し、市民の想像力育成に生かす」という政策案を作成した。そのアイデアが茅ヶ崎市議会に陳情として提出され、市の政策に生かされることになった。 高い意識を持って課題に取り組み、提案をまとめる姿勢は、他の生徒の模範となった。
57	茅ヶ崎西浜高等学校	団体	美術部	—	他者を魅了する作品を創造するという理念のもと、活動日以外にも自主的に作品に向き合い、制作活動に励んだ。制作は個々の活動だが、部員全員で相互にアドバイスをしながら切磋琢磨し、第45回全国高等学校総合文化祭において神奈川県代表作品として選出、第22回高校生国際美術展において秀作賞と佳作賞を受賞する等の成績を収めている。 部活動に取り組む姿勢は、他の生徒の模範となった。
58	上溝南高等学校	団体	男子バスケットボール部	—	「人として成長する」と「県大会優勝」を目標として活動しており、生徒たち自身で練習内容を工夫し、関東大会に出場した。また、学校行事や清掃活動には自主的かつ積極的に参加し、毎年開催している地域の小学生を集めたバスケットボール教室では生徒が懇切丁寧な指導を行う等、校内外問わず貢献している。 関東大会出場という結果や奉仕活動を行う姿は、他の生徒の模範となった。
59		団体	硬式野球部	—	「ボトムアップ理論」の手法を取り入れ、活動の実施計画から練習内容、試合におけるメンバー決めや選手交代、データ分析やサインの決定までを全て選手自身で行っている。他では見られない選手主導という新しい部活動のあり方として挑戦を重ね、競技としての技術向上と目標達成に努めるとともに、野球を通じて社会に貢献する実践力を磨くため日々努力を重ねている。 また、学校行事や校内清掃等にも積極的に取り組んでいる。
60	相模田名高等学校	個人	こばやし みく 小林 望来	3	令和3年9月、下校途中で自転車ごと転倒して動けなくなっている女性を見かけて、付き添い介抱した。後日、介抱した女性が学校を訪れ、その丁寧で思いやりに満ちた行動に対して改めて感謝を述べられた。 見ず知らずの人に対して善意の行為を行う姿は、他の生徒の模範となった。
61	厚木東高等学校	団体	国語受講生徒	—	3学年の国語の授業において、Googleクラスルームなどを活用した俳句や短歌の創作活動や句会を行い、各種コンクール等において多くの生徒が入賞し、「お〜いお茶新俳句大賞」では団体応募賞を受賞した。 普段の授業での取組はもちろん、とりわけ俳句や短歌の創作活動については、どの生徒も創意工夫を凝らしながら、生き生きと自らの思いを表現する手立てを学んでおり、その姿は他の生徒の模範となった。
62	厚木商業高等学校	個人	あびこ さら 我孫子 咲良	3	入学時より、早朝にボディボード競技の練習をしてから登校するなど努力を続けてきた。3年次には、日本サーフィン連盟主催の全日本級別サーフィン選手権大会及び全日本サーフィン選手権大会で全国大会を2大会連続で優勝するなど優秀な成績を収めた。 ボディボード競技の第一線で活躍しながら、学校生活と両立しており、その姿勢は他の生徒の模範となった。
63		個人	たに 谷 みいな	2	始業前の早朝と、放課後から夜遅くまでビリヤードの練習に打ち込み、9ボール世界ジュニア大会などの大会に日本代表として出場し、優秀な成績を収めている。 ビリヤード競技で活躍しながら、学校生活と両立しており、その姿勢は他の生徒の模範となった。

令和3年度神奈川県教育委員会表彰
神奈川県立学校の児童・生徒表彰 被表彰者一覧

No	学校名	個人 団体の別	氏名又は団体名	学年	行為・実績等のあらまし
64	海老名高等学校	団体	皐月祭文化部門 (後夜祭部門を含む) (執行部)	—	コロナ禍により実施も危ぶまれる状況の中、文化祭と後夜祭の実施に向けて計画・立案し、工夫して運営等に取り組んだ。残念ながら開催は中止となったが、代替行事として、作成済みの各クラスの出し物の紹介の垂れ幕の展示や文化部発表等を計画し実施した。 実施の見通しの厳しい中、柔軟に対応し、中止となった後も代替行事の計画を行い実施する等、生徒主体の文化祭の実施に向け意欲的に取り組んだ姿勢は、他の生徒の模範となった。
65		団体	皐月祭体育部門 (執行部)	—	コロナ禍により実施も危ぶまれる状況の中、体育祭実施に向けて、計画・立案し、工夫して運営等に取り組んだ。感染症対策だけでなく熱中症対策にも取り組み、予行と体育祭当日の運営は全て生徒が主体となって行い、成功を収めた。 実施の見通しの厳しい中、柔軟に対応し、生徒主体の体育祭の実施に向け意欲的に取り組んだ姿勢は、他の生徒の模範となった。
66	平塚盲学校	個人	よしみつしゅん 吉光 駿	2	「視覚に障がいがある人でも障がいがない人と同じように気軽に楽しめる場を作りたい」という思いでテーブルゲーム同好会を立ち上げ、会の中心となり活動している。 また、関東盲学校生徒会連合では、文化祭実行委員長に立候補し、企画や運営に積極的に取り組み、リーダーとして活躍する等、その姿勢は、他の生徒の模範となった。
67		個人	やまもと こうき 山本 光輝	2	クラスの代表として、「目指せ！日本一のクラス」のタイトルで関東甲信越地区盲学校弁論大会に出場した。放課後等に自発的に練習を積み重ね、本番では堂々と弁論して優勝という成績を収め、関東・甲信越地区の代表として全国盲学校弁論大会に出場した。全国盲学校弁論大会では優秀賞を受賞した。 また、学校生活では生徒会副会長として行事に意欲的に参加し、その姿勢は他の生徒の模範となった。
68	みどり養護学校	団体	高等部3年生	—	高等部1年次から3年間、生活単元学習の時間を利用して継続して学校近隣の公園や道路等の清掃活動に取り組んできた。また、活動中は積極的にあいさつすることにより公園の利用者や地域の方々との交流を深める等、地域の発展にも貢献している。 共生社会の実現に向け、特別支援学校が地域に対して貢献できることを示し、社会に開かれた教育活動を展開しているこれらの活動は、他の模範となった。
69	相模原養護学校	団体	児童・生徒 有志	—	地域で行われた障がい者アート公募展に、小学部から高等部の22点の作品を出展した。個性的な作品が評価され、学校として学校賞や個人として優秀賞等を受賞した。作品がカレンダーやグッズ等の商品になり、展示会も行われ、アート作品を通して、広く地域社会とつながる取組に参加することができた。 コロナ禍という人とのつながりを持ちにくい社会情勢の中で、共生社会実現へ繋がるこの取組は、他の模範となった。
70	岩戸養護学校	団体	知的障害教育部門 2年	—	校内実習で清掃活動に意欲的に取り組み、校内外の環境美化に努めた。校内清掃では、通常の清掃では行わない清掃場所での作業に取り組み、協力して活動することの大切さを学んだ。校外清掃では、通学路や学校周辺の歩道を清掃し、地域の方とあいさつや会話をするなど、地域との関わりを持つことができた。 清掃活動を通して地域に貢献する姿勢は、他の生徒の模範となった。